

HIC通信

Vol. 108
April 2020
Hiroshima
International
Center



ひろしま留学大使日本文化体験(縮景園)

目次

P2 日本語チャレンジ教室
ふくやま国際交流協会

P3 転ばぬ先の杖
市民グループ ええじゃん

P4 県内留学生による「私の国と日本」

P5 事業報告
交流部
留学生活躍支援センター

P7 研修部トピックス

P8 通訳ボランティア

P10 コラム
Hello Hiroshima
イベント・講座案内
Upcoming Event News

P11 JICAレポート
こちら JICA デスク



日本語チャレンジ教室

ふくやま国際交流協会主催で、外国にルーツを持つ子どもたちを対象に、夏休み（7日間）・冬休み（3日間）の計10日間の日本語チャレンジ教室が開催されました。

長期休暇となると、日本語の使用頻度が低くなる子どもも多く、日本語を使用する機会が減るケースが多く見られます。この事業はそれらを補うために、長期休暇中の宿題を日本語支援ボランティアなどと一緒に取り組むという支援の場を提供し、サポートを行うものです。

この事業は今年度の当センターの助成金補助事業でもあります。

今回は福山市松永町の松永コミュニティセンターで10日間開催された「日本語チャレンジ教室」の内、冬休み初日の模様を見学に行ってきました。

ここは福山市の西の端になりますが、松永地区で開催されたのは、この地区の2校の小学校に外国にルーツを持つ子どもが多く住んでおり、子どもたちが集まりやすいためだそうです。

朝9：30から事前に申し込みのあった子どもたちが集まり、約2時間「日本語チャレンジ教室」が開催されました。

教室では1名の子どもに対して2~3名のボランティアの方がサポートをされていました。

複数人のボランティアの方が一緒に指導することで、得意な分野を補いあったり、他の方の指導方法を見ることで、ボランティアの方自身の参考にもなり、より充実したサポートを実現することができるそうです。

また、ボランティアの中には福山市立福山中・高等学校の生徒さんも数名おられ、学校のボランティア活動の一環として昨年から、この活動に参加されているそうです。

インフルエンザで欠席した子もいましたが、十数名の子どもたちがボランティアの方たちと楽しそうに勉強をしていました。

この日は、NHK広島の取材もあり、この活動がTVでも紹介されました。

今後は福山地区に分散している残りの小学生たちと、中学生のサポートをどうするのかが課題だそうです。



高校生ボランティアのサポート



「日本語チャレンジ教室」のサポート風景

転ばぬ先の杖

身近に住んでいる外国人と市民レベルのお付き合いや助
け合いをしたいと思っておられる方も多いと思います。

しかし、日本の生活、文化、習慣、法律、制度など判り
にくいことが多く、日本には困った時に役立つ色々な制度
があり、専門の窓口がありますが、そこへ行き着くのが困
難で、ハンディをかかえた外国人にはなおさらのことです。

そこで、当センターサミット会員でもある「市民グ
ループええじゃん」が、今まで続けてきた無料相談事業から
見えてきた、「外国人のニッポン生活トラブル事例」から、特に必要と思われるテーマを選び、各領域の専門家を講師にお
招きし9月より毎月1回（計7回）、専門家による解説とグループ討論で理解を深め、さらに個別相談も受けられるセミナー
を開催されました。（<https://h-asian.org/>）

同セミナーは、日本人が日本の流儀を外国人に教えるということではなく、お互いの立場を理解し、共に協力して新たに
築く共生社会のための試みとして、毎回、アンケートを取りながら、より有益なセミナーとなるよう取り組んでいくことを
目的とされています。

この事業も今年度の当センターの助成金補助事業でもあります。

テーマ	講師	日付	参加者 (延べ人数)
多様性社会とコミュニケーション	広島文教大学 岩下講師	9/21	
交通事故その他トラブル	ええじゃん 栗林代表	10/26	
日本の医療	広島平和クリニック 廣川 院長	11/9	
結婚、離婚、DV等	パソ・ア・パソ法律事務所 滑川弁護士	11/30	83(22)
労働(パート、労災、ハラスメント等)	NPO法人非正規労働相談センター 土屋代表	12/21	
被災時の対応と予防	NPO法人安芸高田市国際交流協会 明木事務局長	1/25	
日本と外国の教育の相違点	広島大学外国語教育研究センター 田北特任講師	2/22	
日本人客をおもてなしして	ええじゃん 尹副代表	3/14	中止

※外国人の参加者は、スリランカ、イラン、チリ、フィリピン、中国、台湾、韓国の7か国

(内数) は外国人数



第1回「多様性社会とコミュニケーション」



第3回「日本の医療」

私の国と日本



ベトナム編

県内の留学生から母国と日本の様々な違いについて紹介してもらいます！

留学生紹介 ファム ティ トゥイさん

広島経済大学3年生のファム ティ トゥイと申します。ベトナムのゲアンから参りました。ゲアンは田舎なので、静かで、住みやすい所です。名物はお米で作られる「バンクオン」です。柔らかくて美味しいです。ベトナムへ行く機会があったら是非食べてみてください。



ゲアンのお寺

★ 交通

日本は、車と自転車が多くてバイクが少ないことに驚きました。ベトナムでは、バイクが多くて車は少ないです。その理由は、車が高すぎるからです。ベトナムで車を購入する時は高額の税金を払う必要があり、購入費用は日本の2倍以上するとも言われています。だから、お金がある人しか車は買えません。

★ 祝日

日本は祝日が多いです。「みどりの日」や「海の日」「山の日」など、ベトナムでは聞いたことがないような面白い名前の祝日がたくさんあります。ベトナムでは、旧正月が一番長い休みで一週間あります。あとは祝日が6日あるだけです。

★ 話し方

ベトナム人は相手の気持ちをあまり考えず、自分の機嫌で話してしまいます。それに、人を褒めたり、感謝の言葉もあまり言いません。しかし、日本人はいつも遠回しな話し方で、相手にはつきり言うことはしません。また、いつも「偉いね」や「上手ですね」などと相手を褒めます。私は大したことしたつもりがないのですが、すぐに「ありがとう」と言われます。でも、その言葉を聞いたら嬉しくてやる気が上がります！

★ 食べ物

日本ではご飯に汁をかけて食べる行為は「猫飯」と言われ、公共の場ではマナーが悪いとされますが、ベトナムでは一般的です。ご飯もスープも一緒の器を使うからでしょう。だから、初めて日本人の友達と外食した時、味噌汁をご飯にかけて食べた私を見て、友達は大笑いしました。とても恥ずかしかったです。

★ 最後に

私は今、「ひろしま留学大使」として活動しています。大使として、これらの私の経験や、広島の美しさ、広島の人

優しさ、そして平和の大切さを、後輩たちや世界中の人々に伝えたいです。

そして、将来は通訳者として、日本とベトナムそれぞれの素晴らしいところをもっと多くの人に広めていきたいと思っています。



ゲアンの省都ヴィン市



お年玉をもらいました！



旧正月で親戚一同が大集合



弓道体験（ひろしま留学大使の活動）



佐木島フィールドワークツアー

• Activity Report •

交流部



Report 1 外国人留学生奨学金への寄付を募集しています

当センターでは、企業や県民の皆様の御寄附を受けて、県内に在籍する外国人私費留学生に奨学金を支給しています。（今年度実績49名、他の奨学金を併せ全体で72名）

外国人留学生の多くは、アルバイトをしつつ生活を切り詰めながら勉学に励んでいます。皆さんのご支援をお待ちしています。

● 企業・団体の協力による奨学金 1口 370,000円

● 県民の協力による奨学金 1口 5,000円

※いずれも何口でも可能です。 ※留学生には月額30,000円を1年間支給します。



詳細は、当センターのホームページを参照してください。



交流部



Report 2 雪生活体験(1/26)を実施しました。

1月26日（日）、「雪生活体験」を、美和東文化センター（広島県山県郡北広島町溝口）にて、美和東ふるさと振興協議会と共に開催し、広島県内在住の外国人79名（16か国・地域）に参加していただきました。

今年は残念ながら雪が降らず、北広島町の銀世界の風景を体験してもらうことはできませんでしたが、里山を散策したり、地元の方々からの温かいおもてなしを受けたりと、参加者の皆さんには北広島町の魅力を感じてもらえたはずです。

毎年恒例の、女性会美和東支部の皆さんに作っていただいた地元料理と、外国人参加者による多国籍料理を囲んでの交流会も行いました。ステージ発表では、地元芸能の銭太鼓、地元のイメージキャラクター・花田舞太郎のダンス、神楽を鑑賞し、参加者からは中国民族舞踊と歌謡、中国琵琶の演奏、エリザベト音楽大学の留学生によるフルート、ビオラ、ギターの演奏を披露してもらいました。

その後、スキー場「やわたハイランド191リゾート」に行き、雪遊びを楽しみました。人工雪ではありませんでしたが、参加者の皆さんはそり遊びをしたり、写真を撮ったりと、大変大盛り上がりでした。来年はどうか雪が降りますように！！



留学生活支援センター



Report 3 ひろしま留学大使が日本文化を体験しました!

2月15日（土）に、ひろしま留学大使10名で「弓道」と「きもの着付け」を体験しました。

「弓道体験道場 射楽」を訪問し、店主の指導を受けながら、対戦形式で矢を射ちました。“かけ”と呼ばれるグローブをはじめ、胴着・袴を身に付け、構えも様になっていました。全員初めての体験とあって最初は難しそうでしたが、コツをつかむのがとても早く、的に命中させていました！

次に訪問した「ひろしまきもの遊び」では、思い思いに選んだ着物や帯を着付けていただき、縮景園を散策しました。梅の花が満開の中、着物姿がとても映えていました！

大使の体験内容は、Facebookにも掲載していますので、ぜひご覧ください。

今回お世話になった射楽、ひろしまきもの遊びの皆様、ありがとうございました！



◀ひろしま
きもの遊び
弓道体験道場▶
射楽



ひろしま留学大使 Facebook
<https://www.facebook.com/hsaa2014>



Hiroshima International Center

TOPICS

研修部トピックス



【JICA中国からの受託事業】 その1 HIROSHIMAピーストーク（第2回）



研修員によるミンダナオ紛争の説明

12月14日（土），今年度2回目となるピーストークを大竹市玖波公民館で開催しました。今回は、フィリピン・ミンダナオ島で起こった武力衝突をテーマに取り上げ、地元の中・高校生を含む47人の

参加者が、フィリピン出身のJICA研修員ら5人から、ミンダナオ島で起きた紛争やその背景、現在の状況などについて聞きました。研修員の発表と質疑応答の後、参加者は6つのグループに分かれて紛争地域の小学校に贈る応援メッセージの色紙を作成しました。参加者からは、「これまであまり知ることのなかったミンダナオの紛争について体験者から直接話を聞くことができ、貴重な経験だった」といった感想が寄せられました。

ミンダナオの子どもたちへの色紙▶



研修員と一緒に全員で集合写真

【JICA中国からの受託事業】 その2 日本理解・交流プログラム

2月11日（火），28か国33人のJICA研修員が庄原市を訪問しました。あいにく、暖冬の影響で予定されていた雪遊びは中止になりましたが、地域住民の方のご厚意でわざわざ近くの山から運ばれた雪で、雪投げをして遊びました。

外で遊んだ後は、西城町神楽愛好会の皆さんと披露してくださいました。研修生は、太鼓や笛の音に合わせた勇壮な舞や、12メートルもの長さの大蛇の登場に目が釘付けとなり、鑑賞後は、神楽の衣装やお面を身につけさせてもらい演者の皆さんと一緒に写真を撮るなど、豊かな自然と伝統芸能、そして庄原市の皆さんとの優しさに触れる楽しい1日を過ごしました。



初めての雪投げに感激



「大蛇が降りてきた～」と大はしゃぎの研修員

その3 マリリア市友好提携40周年事業

ブラジル連邦共和国マリリア市と東広島市が親善都市提携40年目を迎えることから、2月8日から16日の間、ひろしま国際プラザ（HIP）において「ブラジルウィーク」を開催しました。開催期間

中は、両市の交流の歴史や、マリリア市及びブラジルを紹介する展示を行い、レストランではブラジル料理を提供しました。また、最終日の2月16日（日）には、HIPのグラウンドで「東広島国際交流フットサルリーグ・マツダ会杯」が開催され、約150人の選手（うち外国人選手90人）が熱戦を繰り広げました。

優勝めざして、雨の中でも何のその！

中は、両市の交流の歴史や、マリリア市及びブラジルを紹介する展示を行い、レストランではブラジル料理を提供しました。また、最終日の2月16日（日）には、HIPのグラウンドで「東広島国際交流フットサルリーグ・マツダ会杯」が開催され、約150人の選手（うち外国人選手90人）が熱戦を繰り広げました。



フットサルリーグ参加者の皆さん

HIC医療通訳ボランティア派遣事業(派遣地域と養成研修の日程)

2020年度HIC医療通訳ボランティア派遣事業の派遣対象地域

広島市、廿日市市、東広島市、三原市、尾道市、福山市、府中市、世羅町、神石高原町

この事業の趣旨に賛同し、この事業の利用を希望する医療機関等がある地域に対しては、医療通訳ボランティアを派遣する方向で検討します。

2020年度HIC医療通訳ボランティア養成研修の日程

	広島会場		福山会場		東広島会場		
	ミニ第1回	ミニ第2回	ミニ第1回	ミニ第2回	4日間	ミニ第1回	ミニ第2回
申込期間	5月8日 ～6月5日	10月9日 ～11月6日	5月29日 ～6月26日	10月30日 ～11月27日	7月10日 ～8月7日	7月10日 ～8月7日	11月27日 ～12月25日
対象言語	英語、中国語、ベトナム語、タガログ語、スペイン語		英語、中国語、ベトナム語、タガログ語、ポルトガル語		英語、中国語、ベトナム語、タガログ語、ポルトガル語		
定員	各言語2名程度				各言語10名程度	各言語1名程度	各言語2名程度
研修日	第1日目 6月21日 (2時間程度)	11月22日 (2時間程度)	7月12日 (2時間程度)	12月13日 (2時間程度)	8月29日 (1日)	9月6日 (2時間程度)	1月10日 (2時間程度)
	第2日目 6月28日(1日)	11月29日(1日)	7月18日(1日)	12月19日(1日)	8月30日(1日)	9月13日(1日)	1月16日(1日)
	第3日目				9月12日(1日)		
	第4日目				9月13日(1日)		
研修後のボランティア登録選考	6月28日	11月29日	7月18日	12月19日	9月13日	9月13日	1月16日

備考：受講希望者多数の場合は、申込書の資格経験等を考慮し、事前に書類選考します。

外国人のための総合相談窓口



HICは県内で暮らす外国人の皆さま方が、安心して暮らしていただけるよう「外国人相談窓口」を開設しています。この窓口では、在留資格、社会保険・労働条件、法律・人権などの専門的な相談や暮らしに関する相談を、英語・中国語・ベトナム語・韓国語・タガログ語・ポルトガル語・インドネシア語・タイ語・スペイン語・ネパール語の10か国語で対応しています。

対応言語	英語、中国語、ベトナム語、韓国語、タガログ語、ポルトガル語、インドネシア語、タイ語、スペイン語、ネパール語
相談料	無料
相談方法	相談窓口での相談 ひろしま国際センター（広島市中区中町8-18 広島クリスタルプラザ6F） 電話相談 0120-783-806《フリーダイヤル》※電話のお金がかかりません。
相談内容	一般（暮らし） 毎週月曜日～金曜日：午前10時～午後7時 毎週土曜日：午前9時30分～午後6時 昼休み（午後0時～午後1時） (ただし、祝日及び12月28日から1月4日までを除く) 専門相談 毎週木曜日・土曜日：午前10時～午後4時 昼休み（午後0時～午後1時） (ただし、祝日及び12月28日から1月4日までを除く) ●在留資格(Visa)………行政書士が対応 ●社会保険・労働条件…社会保険労務士が対応 ●法律・人権…………弁護士又は司法書士が対応（土曜日のみ）

備考：今年度も、昨年度に引き続き、市町からの地元開催の希望があればできるだけ対応します。



日本も元気になる



「世界を元気にする」これはJICA海外協力隊のシゴトです。でも実は、もう一つ大事なシゴトがあります。それは、
「日本も元気にする」隊員には、海外での経験を日本、とりわけ自分の住む地域に還元するというシゴトもあるんです。

今回は、広島県内各地で地域を盛り上げるために奮闘する隊員OB／OGたちの様子をお伝えします。

氏名 / 派遣国 / 職種 / 派遣期間



学校給食調理員研修会でドミニカ料理を教える大方さん（赤いユニフォーム）

ドミニカ共和国で生まれ育った6~16歳の日系の子どもたちに日本語・日本文化を教える活動をしました。ドミニカ共和国は他国と比べると移住の歴史が新しく、1世がご健在で、移住当時のお話を直接聞くことが出来ました。苦労話を笑いに変え、ドミニカ共和国を第二の故郷と慕う、移住者の明るく力強い笑顔から、日本人であることへの誇りを感じました。それが、私自身にとって未知の世界を知る非常に貴重な経験となりました。

@北広島町

大方 芳恵 ドミニカ共和国 / 日系日本語学校教師 / 2015年12月～2016年12月

私が活動していた2016年は日本人移住60周年の節目の年だったので、様々な学校行事で移住学習を取り入れ、生徒のおじいちゃん、おばあちゃん世代（1世）、お父さん、お母さん世代（2世）と生徒（3世）を結ぶ企画を通じて幅広い世代と関われたことに感謝しています。

日本では北広島町が、2020年東京オリンピックのドミニカ共和国柔道・陸上選手団のホストタウンになりました。受入事業の一環で、2018年から地域住民の方々を対象にしたドミニカ共和国セミナーを担当させて頂いています。料理やダンス、ドミニカ特産の天然石ラリマールを使った手芸講座の講師をさせて頂き、帰国後もドミニカ共和国と関わりを持たせてもらっています。ドミニカ共和国滞在中のホームステイ先で教えてもらった伝統料理「サンコーチョー（ごった煮）」「アビチュエラ（豆料理）」や定番のデザート「アビチュエラ・ドルセ（ぜんざいのようなデザート）」を日本の方に伝える機会を頂けるなんて光栄です。ホストマザーにこのことを伝えるととても喜んでくれました。このような活動をすることで、お世話になったドミニカ共和国にも、大好きな広島にも恩返しができればいいなと思っています。

@江田島市

小林 純 東ティモール / 理学療法士 / 2016年7月～2018年7月

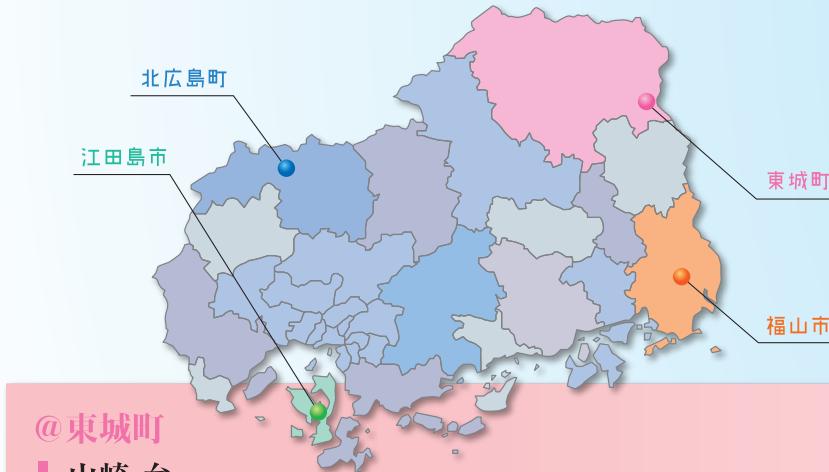
青年海外協力隊員時代は理学療法士として活動しました。活動先の病院の現場で“理学療法”だけでは解決できない“何か”が障がい者の社会参加を阻んでいると感じ、患者を取り巻く地域社会と積極的に関わるようになりました。その中で、障がい者の生きづらさの要因として、身体機能の障がいだけでなく、独立戦争による民族分裂や貧困・女性差別などが社会・文化的に複雑に絡まりあっていることがわかり、地域や障がい者の暮らしに根ざしたリハビリテーションの重要性に気づかされました。

東ティモールでの任期を終え帰国したのは、広島で甚大な豪雨災害が起きた2018年7月でした。江田島市で暮らす祖父母は「地域の人がどうなつとるか…。みんな年寄りで遠くまで動かれんけん。最近は外国人さんもようけおるんじゃが、それらあがどうなつとるんか、分からんよのう…。」と近所を気遣う一方、自分たちも断水の影響で井戸水での洗濯を余儀なくされていました。90歳を超える祖父母のそんな姿を目にして、島の高齢化に危機感を覚えると同時に、理学療法士としての高齢者支援の経験と青年海外協力隊としての国際協力の経験を活かしたいと思うようになりました。



イベントで一緒にダンスを披露した外国人住民と小林さん（右端）

江田島市で地域おこし協力隊の活動を始め4か月経った頃、地域から「盆踊りに外国人を呼ぼう」という声が上がり、私は外国人住民と一緒にになって盆踊り大会でダンスを披露することになりました。当日、踊り終えた後、「あなたの日本語がとても上手ね！」と日本人の方に褒められたので「僕、日本人なんです」と言うと、その場にいた皆が笑いに包まれました。江田島市で地域の活動を維持し、高齢者や外国人住民の社会参加を促進する今の活動は、地域の歴史や文化を理解するために、そこに暮らす人々と膝を交えて交流した青年海外協力隊の経験そのままだと感じています。



@東城町

山崎 允

ザンビア / 観光 / 2002年10月～2005年4月

旅行代理店を定年退職後にJICA海外協力隊に参加し、観光資源の掘り起こしや旅行商品を開発するという活動をしました。赴任したザンビアはエイズ罹患率世界一と言われ、そのせいか、お葬式が多かった印象があります。しかし、そんな現状を笑い飛ばすかのように、結婚式などのお祝いでは大音響の司会者トークとダンス音楽が夜通し続き、陽気な国民性に閉口したりもしました。活動も色々大変でした。視察先の国立公園では宿泊施設がなく、銃を持った公園監視員と野営テントに泊ったことがあります。監視員はすぐに寝てしまい、私はハイエナらしき野生動物のケンカの気配に怯え寝るどころではなかったことも、今では良い思い出です。帰国直後に開催された愛知万博のザンビアパビリオンで4か月間ボランティアをしたところ、それが功を奏したのか「ザンビア共和国観光大使」に任命され、それ以降ザンビアの魅力を伝える活動を続けています。

現在は庄原市東城町を中心に子供たちの国際交流を後押しする

活動をしています。旅行代理店勤務時代、訪問国で小学校を訪問した経験から小学生同士の

絵の交流を思いつき、地元の八幡小学校の生徒たちの絵をザンビアのムクシ小学校へ送りました。ここは、青年海外協力隊として広島大学大学院国際協力研究科から派遣中の高橋由哲隊員の配属校です。すると、ザンビアからも絵が届き八幡小の子どもたちは大喜び。その後も学校で文房具を集めて現地へ送るといった交流が続いています。日本でも、ザンビアでも、子どもたちには志を大きく持って世界で活躍する人材に育ってほしいです。



小学生にザンビアを紹介する山崎さん

@福山市

吉田 雅美

コートジボワール / 助産師 / 1995年4月～1997年8月

コートジボワールの地方都市にある保健センターで妊婦検診や乳幼児健診などに従事していました。地域に受け入れられるためには“何でも屋”になる必要があるなあと感じ、近所の子供たちと道端の草刈りをしていたら水道管を割ってしまって水浸しに…というように、生活は毎日“事件”的連続でした。

帰国後は地域の助産師として活動し、小学校などで健康教育に携わってきました。国際協力からは縁遠くなっていましたが、

「コートジボワールにお返しをしたい。豊かなアフリカを伝えたい。」という思いが、地域の人びとに世界へ目を向けてもらえるような活動を始めるきっかけとなりました。昨年は青年海外協力隊OB会と協力し、ふくやま子どもフェスティバルでアフリカ文化や助産師隊員の活動を紹介しました。当日は、駐日コートジボワール大使夫人も参加され、未来を担う子どもたちの健やかな成長を願う活動を今後も続けていくことを約束しました。活動は徐々

に広がり、福山城あかりまつりでは、福山商工会議所青年部のご賛同、駐日コートジボワール大使館のご後援をいただき、両国の子どもたちの文化交流を通じて作った竹あかりが飾られました。そして、福山ばら祭りの今年のテーマは、“世界へ！未来へ！届けよう！ローズマインド！”です。バラの花が大好きな大使夫人と共に、何かできたらいいねと話しています。

20年の時を経て始めた活動はわからないことだらけですが、どんな状況でも前を向いて楽しもうというセンサーが働くとき、見知らぬ土地で多くの方と出逢い励まされ奮闘した協力隊の経験が生きていると感じます。

「この世で一番最初に出会う世界中の助産師は、あなたの素晴らしいことを知っています。いつもあなたの健康と幸せを願っています」このメッセージを多くの人に届けながら、子どもたちがアフリカを体感できる企画を今後も続けていきたいです。



ふくやま子どもフェスティバルでアフリカの子育てを紹介する吉田さん（左端）

Hello Hiroshima

Vol.108 April 2020



Hello Hiroshima! Aya here.

Aya

(Hiroshima Prefectural Coordinator
for International Relations)

It's been a long time! Hope you all are surviving these cold winter months.

However, the plum blossoms have begun blooming, so you all know what that means; spring and the sakura (cherry blossom) season are in sight!

I think we all have certain memories tied to particular seasons or smells or sights. For me, sakura hold a particularly deep nostalgia.

Why for an American, you might ask?

Being half Japanese, I understood that Japan was my birthplace, that my name meant “many colors” in Japanese, that I was the only one who called chopsticks “ohashi” at school because of where I came from, that Japan was part of who I was. However what really solidified my connection to Japan, was my annual visits to see my father’s family, who to this day live in Kanagawa

prefecture. Through those trips, I fostered a deep feeling of connection with my Japanese relatives, my Japanese heritage, and the country itself.

I always visited during spring break so that it would perfectly align with the peak sakura season. Even now, the image of the lake at Inokashira Park covered in fallen sakura blossoms, so soft and white they could be mistaken for snow, is one of my fondest memories. They would appear and then disappear so suddenly that to 10 year old me it was like magic! Thus I have always strongly associated sakura with nostalgia for my joy-filled visits to Japan as a child. To this day, it remains my favorite flower.

However for the last ten years, due to bad timing, I have been unable to see Japan’s sakura season in person. Thus, this spring’s blossom holds special significance for me, even more so due to it being my first sakura season since moving to Japan!

Whether or not sakura holds particular significance to you, I hope you will enjoy their beauty with the people you care about, and make fond memories around them just like I have. Wishing a wonderful spring, and happy hanami (flower-viewing) to you all!

Upcoming



E v e n t N e w s



アマゾン森の現状・先住民からのメッセージ～私たちはどこへ向かっていくのか

熱帯森林保護団体は、設立30周年を記念してブラジルから先住民2人を招待します。

アマゾンの森の現状は経済優先の論理で自然破壊に拍車がかかり、地球温暖化で大規模な火災を招くなど急激に熱帯林が消失しています。先住民の存続が危ぶまれる中、彼らの暮らしづらさから私たちの足元を見つめることで、次世代に向けての指針となる気づきを得る貴重な機会になることでしょう。

日 5月30日(土) 時 13:00~16:00 費 一般¥1,000 学生無料
定 150名 場 広島市留学生会館

問 热帯森林保護団体ひろしま 担当者：松岡 敏子
TEL : 082-923-5166
090-5705-8558
mail : midori@cc22.ne.jp

ええじゃん『転ばぬ先の杖』展、嵐柴茂+アジアの子供たち写真展 [だからアジア]

日本一の移民県であり世界に28県人会を有する広島県だからこそ、地に足のついた形で移民を受け入れ、市民との共感を育み、この地に眞の共生社会を実現すべきでしょう。嵐柴氏のアジアの子供たちの写真から、少しでもお互いの人間的な共感を育むことができたらと思います。

なお、6月17日～21日のギャラリーでの展示の他、19、20日の両日（18～20時）は、会議室で「アジアの子ども達写真展の舞台裏」、「転ばぬ先の杖」リレートークと「つなぐ日本語」および多言語翻訳・通訳の体験会も開催する予定です。

日 6月17日(水)～21日(日)
時 10:00～18:00(最終日 17:00)

場 はつかいち美術ギャラリー展示室3

定 なし 費 無料
問 市民グループええじゃんか
TEL : (0829)31-2224
mail : kkurisan555@gmail.com

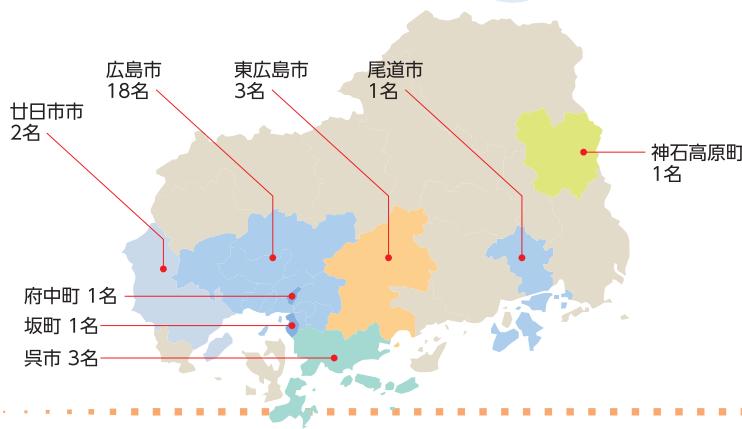


こちらJICAデスク



広島から世界へ! いつか世界を変える力になる!

30名の広島県出身の隊員が世界で活躍しています!



帰国隊員レポート

～ラオス（ラオス人民民主共和国）篇～

職種：PCインストラクター

花岡 早織さん



現地での活動内容

ラオスの首都ビエンチャンにある職業開発センターにてコンピューターコースの新設と授業運営を行いました。ラオスはラオス語が公用語ですが、ラオス語のテキストや教材は当時ほとんど見当たらず、どのように授業をすれば良いかとしばらく戸惑いました。他の隊員の職場を視察したり、市場や関係各所に顔を出したりして情報をを集め、同僚と協力して新規教材を作成するなど、日々より良い授業を目指して活動していました。

他に、ラオスで初の試みとなった「原爆展」を大学や中等教育学校（日本でいう中高一貫校）等で実施したり、広島にあるNGO・ANT-Hiroshimaさんとコラボし、絵本「おりづるの旅」をラオス語に翻訳する活動も行いました。



▲授業風景



▲たくさんの人の協力で1冊の翻訳絵本が完成しました

ラオスってこんなところ！

大河メコン川が南北を貫く東南アジアの内陸国です。公式には49の民族が共存しているとされ、多様な文化が共存しています。穏やかで寛容な気質の方が多いです。ラオス人の多くが仏教を信仰しており、首都の市街地でもオレンジ色の袈裟を着て歩く僧侶を見ることがあります。

乾期と雨期があり、雨期は短時間でバケツをひっくり返したような雨が降ります。観光のベストシーズンは乾期とされていますが、個人的には雨期のラオスが好きです。空からの恵みを浴び緑鮮やかな木々に囲まれながら「どこにも行けんじゃん、まあいいか」と、ひとつの場所でゆったりと何もせず寛ぐのがラオスの良い過ごし方と思っています。“何もない”をしに、ラオスに是非遊びに行ってみてください。



▲雨期のビエンチャン



▲日常的に見られる「托鉢」

ラオスの食事



▲ラオスのもち米「カオニヤオ」

ラオスの主食はもち米。ティップカオと呼ばれる小さな竹籠に入れ、手を使って食べます。現地ではびっくりするほど大盛りで入れられますが、炭火でじっくり焼かれた魚や肉、ひき肉と香草で和えたピリ辛おかずなどと一緒に食べるので、美味しすぎてあっという間にになります。おかげで10kg太って帰ってきました（笑）。

また、ラオスでは昆虫食もあり時々コオロギやカヘムシなども食べていました。最初はかなり抵抗がありましたが、口に入れてみると全部エビのような食感で、帰国する頃には昆虫食が恋しくなってしまいました。

■現在赴任中の広島県出身 JICA海外協力隊(名)

区分	男性	女性	合計
青年海外協力隊	12	9	21
シニア海外協力隊	3	1	4
日系青年海外協力隊	3	2	5
日系シニア海外協力隊	0	0	0

2020年1月31時点

<JICA海外協力隊>

「自分の持っている技術・知識や経験を開発途上国の人々のために活かしたい！」という強い意欲を持つ20歳～69歳の日本国籍を持つ方が対象のボランティア事業です。

派遣は原則2年間。衣食住を現地の人とともにしながら、互いに理解を深め、同じ目線で途上国の課題解決に取り組みます。また、帰国後も現地での経験を日本の地域や世界の発展に役立てることが期待されています。

そんな草の根レベルのボランティアに、あなたも参加してみませんか？

ラオス（ラオス人民民主共和国）

東南アジアのインドシナ半島に位置する人民民主共和制国家

【概要】面積：約24万平方キロメートル
人口：約649万人
首都：ビエンチャン
言語：ラオス語
宗教：仏教

花岡 早織さんプロフィール

- ・尾道市御調町出身。
- ・安田女子大学卒業後、広島市内のホテルにてパンケット・ブライダルアテンダーとして勤務。その後、広島県内の公立高校で情報科の非常勤講師として7年勤務。2017年6月にラオスの首都ビエンチャンにてPCインストラクターとして2年半活動。

参加のきっかけ

高校生の時にJICAのプログラムに参加し、その時から協力隊に憧れを持っていました。しばらくは日々の生活に手一杯でそのような思いも忘れていましたが、年々世界情勢や、身の回りの人の事情に心を痛めることが増え、自分が行動することで他者に良い影響を与えるのではないかと考え、協力隊に応募しました。

参加して思うこと

協力隊に参加して、他者に対してWhat（何）ではなく、Who（誰）の視座を持つようになったと思います。以前までは「外国人」「途上国」「ラオス人」というような、勝手に区分けして名付けた解像度の低い捉え方しかできていませんでした。そこから来る偏見もあったと思います。ラオスで様々な人とじっくり向き合う生活中で、そんな大きな括りでまとめられるほどこの世界は簡単にできていないと気づけたし、出会った1人1人の違い、良さを知り、それぞれの生き方を尊重したいと思うようになりました。「トゥクトゥクのドライバー」から「ケオさん」へ、「物乞いをする人」から「ターちゃん」へ、「所長」から「米山さん」へ。国や立場からくる関係性を超えて、いち人間同士で関わり合っていくことの素晴らしさをラオスで学ばせてもらいました。

「グローバルリレーションズ・プログラム(GRP)」参加者の声

HIC article: Rohaidah L. Mamaさん, Roeve Ann Mae C. Mazoさん (Mindanao, Philippines)

Kon'nichiwa!

We are doing a research enrichment program which is a vital portion of our doctoral dissertation on Natural Products Chemistry. We are grateful to be under Dr. Shinji OHTA's laboratory at Hiroshima University. To be able to do this in Japan is a remarkable opportunity for us and even more so by being Global Relations Program members.

It is our first time to travel to and live in a foreign country. Making use of public transportation, learning important Nihongo phrases to get by, and the Japanese technology seemed so scary and overwhelming for us. Our apprehensions were eased by participating in the activities organized by the HIC. Each one made us discover and appreciate the differences of Japanese culture from ours. Introducing our country and playing with cute Japanese schoolchildren gave us a sense

of happiness. The locals were sympathetic when we related our plight during the Marawi City siege in an activity that ended on a heart-warming note. We interacted with Japanese junior high school students and learned that they share the same interests with Filipinos of the same age. They are as eager to know about us and our culture.

Living in HIP made our stay very comfortable as this had been our first winter experience. We cooked, shared food and had fun parties at the cooking events room and played badminton together with other GRP members. We are also charmed by the beautiful autumn and winter sceneries of Hiroshima (and Japan as a whole) and picked-up Japanese food favorites along the way. We treasure every moment here and we'd love to come back soon!



グローバルリレーションズ・
プログラム(GRP)とは?

ひろしま国際プラザに入居して大学に通いながら、国際社会で活躍できる「実践力」を身につけることを目的にした、外国人留学生のためのプログラムです。現在(2020年2月末)、8ヶ国16人の留学生が参加しています。

そのほか、レジデンツアシスタントの日本人学生名が入居し、彼らを支援しています。

★入居使用料

1泊800円 管理費2,550円／月

月額24,950円～27,350円(水道光熱費込み)

★毎年、春と秋に入居者を募集しています。詳しくは「ひろしま国際プラザ」のHPをご覧ください。

「県内文化施設優待カード(HiCisメンバーズカード)」を発行しています。

このカードは、県内留学生を対象に発行し、広島県内の文化施設（美術館、博物館など）68施設の入場料が無料（一部施設は割引）になったり、広島県留学生活躍支援センター（HiCis）のイベント情報がメールマガジンで配信される、とてもお得なカードです。

申込は、留学生本人がオンラインフォーム (<https://bit.ly/2TAFCSn>) から申し込みください。（学校でまとめて申し込むところもあります。）

カードは、大学等を通じてお渡しします。



交流部&留学生活躍支援センター

〒730-0037
広島市中区中町8-18 広島クリスタルプラザ6F
TEL.(082)541-3777 FAX.(082)243-2001
E-mail／hic@hiroshima-ic.or.jp

■開館時間

月～金 10:00～19:00 土 9:30～18:00
日・祝日および年末年始(12/28～1/4)はお休みです。



研修部 (ひろしま国際プラザ)

〒739-0046
東広島市鏡山三丁目3-1 ひろしま国際プラザ内
TEL.(082)421-5900 FAX.(082)421-5751
E-mail／hicc@hiroshima-ic.or.jp

■開館時間

(情報センター・図書室・NGO交流室) ※情報センター・図書室は平日 12:30～13:30閉館です。臨時に閉鎖する場合は、HPで随時お知らせします。
月～土 10:30～19:00※
日・祝日および年末年始はお休みです。

